

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200079		
法人名	社会福祉法人若竹会		
事業所名	グループホーム サンフラワー		
所在地	岩手県宮古市板屋4-4-2		
自己評価作成日	平成21年10月30日	評価結果市町村受理日	平成22年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390200079&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財) 岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本通三丁目19番1号
訪問調査日	平成21年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「ISO9001」の認証を取得しマニュアルとチーム連携の充実に努めサービス向上につなげている。 ・近隣小学生との心とむ交流です。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ISO9001を取得したことにより、職員の向上性が増し成果に繋がっている。夜勤を2人体制で行うことにより、利用者の安全と職員の安心に配慮がされている。入浴は夕食後に行い、家庭での習慣を維持している。家族会はないが、行事の後には家族との懇談の時間を作り、意見や要望を聞く機会を作っている。敬老会の集まりには全家族が参加をして話し合いが出来た。利用者は穏やかで笑顔があり、笑い声がよく聞こえてくる清潔で暖かいホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を基本とし、いつも目につきやすい場所に掲示し職員間で共通の認識を持った上で具現化できるよう取り組んでいる。	法人の理念である「いたわりとやさしさ」を基本に、尊敬をもって利用者に接している。短期と長期の目標を立て、達成出来れば次の目標を掲げている。理念は職員にも浸透されており、実施に向けて日々努力されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買出し、沿道や公園の草取り、枯葉清掃時に近所の方と挨拶を交わすなど交流できている他地域交流として春の市を開催しサンフラワーの活動が地域に浸透できるよう取り組んでいる。	新興住宅地のため、地域とのかかわりに難しさがあるが、公園の清掃や草取りで地域との交流をしている。「かわいい訪問者」小学生10人が月3回訪問して、夏休みの自由研究(たまねぎの皮染め)をしたり、秋には泥団子作りを利用者と一緒に楽しんだ。作品は地域の文化祭に出品した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で民生委員から話が出るが事業所の力を活かした地域貢献の方法についての具体的話し合いはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サンフラワー事業推進目標を挙げ、その取り組みの実践状況の報告と評価を議題のテーマとして会議し、委員からの率直な意見や助言を取り入れてサービス向上に活かしている。	委員さんの勧誘で地域の「おしゃべりクラブ」への参加を企画したが、インフルエンザの流行ため実施に至っていない。千徳小の校長、区長(元消防署長)に委員をお願いして小、中校の体験学習も計画している。地元交番とは、エスケープ傾向のある方の情報を提供して見守りを依頼している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者とは運営推進会議の中で施設で直面している課題や解らない事などを積極的に相談しているが、今後は随時出向いたり電話などで相談するよう努めていく。	行政に対しては、外部評価のわからないところや、問題点の指導を受けている。行事計画をして交流を図るように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修で身体拘束に該当する具体的な行為や、その行為による弊害を理解し、利用者に対する尊厳といった人権感覚を身に付け法人全体で身体拘束ゼロに向けた取り組みをしている。	日中はセンサーが稼働している。夜間21:00~6:30は防犯上施錠している。各居室にも出口があるが、出入りをする方はいない。特養の経験をした職員が多いのでケアに関しては問題はないが、強い言葉かけをした時は、お互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待といった人権無視のケアはあってはならないことと認識し、業務の中で些細であっても不適切と思われるケアを放置せず注意をしようほか、カンファレンスのなかで自分に置き換えてケアを見直す取り組みをしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム サンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を通じて学ぶ機会は持ったが全職員の周知には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、相手の立場に立って不安や疑問な点を表せるような働きかけと説明を行い、納得をされたうえで手続きを始める等の配慮に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見集箱や苦情相談の窓口を設置し、寄せられた苦情に的確に対応しサービスの質の向上に結びつける取り組みとして苦情内容を分析し、組織的に対応していく体制がとられている。また懇談会を通じてご家族からの意見や要望を聞いて日々の運営に反映させている。	開所時に1件苦情が寄せられた。家族と職員とのコミュニケーションのとり方に問題があったが、最近では関係は良好である。懇談会を行事の後(母の日、敬老会)に開催をして、全家族の参加をいただいた。問題把握は、申送りノートで職員全員に、周知できる方法がとられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンスの中で現場の実情や課題などを出し合い解決に向けての意見交換を行っている。	ISO委員会を月1回開催をして意見交換会をしている。それぞれの事業所の抱える問題を話し合っ解決に向けた取り組みがされている。現場職員の声も上まで届く仕組みが確立されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議やカンファレンスの中で現場の実情や課題などを出し合い解決に向けての意見交換を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを意図的・計画的に行うため、スキルチェックにより職員個々の得手・不得手を確認し、各自目標を持って研修に取り組む機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会沿岸北ブロックに参加し、技術や知識の習得のみならず時には職員交流の場として外での研修機会がよい刺激となっているほか、他事業所を訪問し苦労話や工夫等の情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅を訪ね、聞き取り調査だけでは知る事のできないより自然な利用者の本来の表情や家族との関係を見たり、本人らしい生活や思いを感じ取り徐々に馴染みの関係を築き、利用者にとっての入所の納得につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を重ねこれからはじまるグループホームでの生活やケアの方針についてできるだけ詳しく説明し、家族にイメージしてもらう。そして家族の戸惑う点や要望等に耳を傾け関係をつくる事に努めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所としてできる限り対応に努め、必要に応じてサービス利用の調整を行っていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は生活の知恵の宝庫であり学ぶ事が多く、家事や畑作業等の中で一緒に時間を過ごし、利用者と職員は持ちつ持たれつの相互の存在を支え合う関係を築く日々を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は積極的に行う他、行事等の参加を呼びかけ家族を合わせた関わりを大事にしている。また懇談会での意見交換では家族もケアチームの一員であることを理解して頂き、より良い介護につなげたい思いを伝え続けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同窓会への出席、ご友人へ手紙やご面会のお願い、また回想話から馴染みの場所等を聞きだし出かける機会を作っている。	おしゃれをして同窓会に出かける方、家族と一緒に行きつけの美容院へでかけたり、近くのスーパーへ買い物に出かけている。毎日10時のおやつ時には「教育勅語」を全員で唱和して昔を懐かしんでいる。歌が大好きで、昭和の歌謡曲が静かに流れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や認知レベルに配慮したり、利用者間の関係の理解にも努め、利用者同士がかかり合えるよう職員が橋渡し役に徹している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービスを受ける際には本人の状態やサービス内容等の情報を提供する事で次のサービスがスムーズに提供されるよう努めている。またサービス終了後も家族やケアマネに連絡をとり、様子や意向を聞くなど関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の話に耳を傾けるという職員の態度で信頼関係をつくり、そうした過程において思いや意向を明らかにしていく。また生活に対する意向を継続的に確認していき、思いや意向を共有している。意思表示の困難な利用者については職員がその思いを感じ取ったり気づいていく努力をしている。	利用開始時と2ヶ月に1回、生活歴を基本にして、思いやその人らしさについて担当職員を中心に、全員で検討会をしている。「安心してください」表を作成して数箇所に置き不穏な状態になった時は、すぐ表と一緒に読んで安心をしていただく方法をとっている。ほとんどの方は、気持ちを伝えることが可能である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のなにげない利用者の話に根気よく耳を傾けることで、家族ですら知らなかったことを話してくれることもあり、その後のケアのヒントになったりするなど、本人なりに築いてきたなじみの暮らしを継続できるよう「昔とった杵柄シート」を活用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者と同じ時間を一緒に過ごし、その中でどのようなことができてどのようなことができないのかを「私時間の過ごし方」「私のできないことシート」をもとに、有する能力や身体状況を的確に把握していくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望や意見を十分取り入れ、担当職員からのケアプランにつながる全ての情報収集をもとに、介護支援専門員がケアプランの原案を作成し、サービス担当者会議の中で本人の可能性や生きがいに照らした話し合いを行い決定している。	ケアプランの元になる情報は担当職員が提起して全員で検討をしている。ケアプランに上げるまでもない事案は、月1回のカンファレンスで改善している。どんな些細なことでも申し送りノートに書き込み、職員全体で共有する仕組みをとっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に日々の支援内容を記録している他、気づきメモ「連絡帳」にて共有し、そこから支援課題が見えてくることもある。また毎月のケアカンファレンスで個別ケアの検討を行い必要であればリアセシメントを実施し常に最善のケア提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が付き添いできない場合の受診や買い物等の外出支援、ご家族の宿泊やお孫さんの預かりなど一人ひとりの思いや要望に合わせて柔軟な対応に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム サンフラワー

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「おやつ作り」「詩吟の会」「神社仏閣のお話し」等ボランティアとの交流、また地域の小中教諭への積極的アプローチを心掛け小学校行事に参加、小学生による触れ合いボランティア、「春の市」など地域住民の力を借りた取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院への受診の際は、主治医へ利用者の心身状況を詳しく説明し、健康相談や対応方法などのアドバイスを受けている。認知症以外の受診の場合はご家族の意向に応じ、本人の症状に合った医療機関を受診している。	ホームのかかりつけ医に変更した方もあるが、以前からの主治医を2名の方が利用している。家族通院が原則であるが、ホームからも担当が同行して報告をしたり、助言を貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員や協力医療機関の看護師等健康管理や医療面に関しての相談を必要に応じて行い指示や助言をもらい個々の健康管理や医療支援につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はご家族の同意を得たうえで本人に関する情報提供を行い、病院関係者とも連絡をとり短期間での退院につながるよう努めていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、その状況に応じて対応が取れるよう本人や家族の意向を継続的に確認していき、これから起こりうる様々な状態にどう応えるかを家族とも話し合い医療機関と相談しながら体制的に可能な限り出来ることを支援していく。	利用開始時に説明はしているが、家族に対してターミナルをすることを明言はしていない。最後まで見てあげたい気持ちだけでは、対応が出来ないもどかしさを感じている。ホームとしては、限界までお世話をする気持ちでいる。家族の気持ちは、ターミナルの希望が強いと感じている。	利用者はもちろんのこと、家族の安心につなげることが出来るように、法人とも話し合いを重ねて、看護師の配置(法人で決定済み)や後は医療連携も視野に入れて対応をされることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに基づいた手順や方法の周知徹底を図り、事故発生時に活かされるよう訓練の機会を持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月毎に消防署と連携し避難訓練を実施している。また同法人職員や地域内に住む職員等による緊急時の協力体制ができています。さらに自治会長に立会いを依頼する事もある。	消防署と連携した避難訓練は2ヶ月ごとに実施しているが地域の協力依頼はしていない。日中の訓練はしているが、夜間想定訓練はしていない。	グループホームを理解してもらうためにも、広く地域に呼びかけをして、避難訓練の場所を提供したり、人のつながりを作ることも、良いと思われる。夜間を想定したり、ホーム独自に備蓄をすることも今後の課題として検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳が守られるよう敬意を持った言葉遣いや態度で接している。個々のケース記録等は他者の目に触れない場所に保管しインシヤルで表示している。	マニュアルを作成して言葉使い、尊敬の気持ちをこめた態度に配慮をしている。職員同士で気がついたときは注意をしあって日々のケアにあたっている。利用者同士のトラブルを回避するため、座る位置には注意をして、職員が間に座る方法をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の適切な声かけと誘導で一人ひとりの意思決定を導き出し、本人の慣れ親しんだ過ごし方や希望を知り取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、それに縛られないで個々の意思決定を支えながら本人の希望や思いの一日を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好む髪型や服装にしている。化粧品や衣類なども一緒に出かけ自分で選んで頂き購入している。また馴染みの美容院に出掛けられるようご家族と協力し実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の得意分野を最大限に活かしながら買い物、食事の準備から調理、後片付け等を行いお互いの料理をほめながら楽しい雰囲気になるよう心がけている。	職員の声掛けで参加が可能である。買い物によって、献立が変更になる。行事食、伝統食を取り入れて回想に役立てている。調理に参加をする時は、まな板の上で野菜が動かないように注意をお願いをしている。包丁とコップ以外については、後片付けにも参加をお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況については毎日チェックし記録している。また利用者の嚥下状況や食習慣に応じ、粥食や食材によっては粗刻みにする等配慮している。カロリーや栄養バランスに関しては同法人内の栄養士の指導やアドバイスを受けて実施。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや義歯洗浄の声かけでしっかりと磨いていただいている。義歯だけでなく歯茎や舌などもブラッシングも職員がついて実施している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム サンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、排泄の誘導を確実化することで失敗の回数を減らす事ができている。また排泄用品は昼夜、外出時、季節に応じて使い分けしている	利用によってオムツからリハパンに変更した方が8人、1人の方は、布パンツにと改善が見られる。家族の了解をいただき、排泄の支援の方法に応じた介護用品を使用している。トイレ誘導もさりげなく行われており、清潔な感じがした。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランス良くしっかり食べて水分を十分に摂ることに力を入れ、日中は軽い疲労をおぼえる程度に活動し快眠につなげる等、生活環境を整えることにより便秘を防ぐ取り組みを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夕食後から就寝前に入浴していただき、安眠できるよう取り組んでいる。利用者の要望し応じ入浴回数を増やしたり入浴剤に変化をつけるなど楽しめるよう努めている。	このホームの特徴である夕食後の入浴は、3日ごとに対応しているが、夜勤2名を活かして1日おきでも可能である。パジャマ、下着は毎日着替える。毎日足浴をする方が1名ある。布団は毎日1名分ずつ乾燥している。入浴後は熟睡される方が多く効果を感じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分な睡眠の確保のため、日中はできるだけ体を動かしてもらったり外気に触れる時間を設ける等取り組んでいる。夜の入浴実施が更なる安眠につながっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服している薬情報を個々のケースファイルで把握している。また常に副作用を予見し副作用で利用者が受けている苦痛の度合いを把握して速やかに医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	どんな些細な事からでも一人ひとりの得意分野を活かした役割づくりをケアプランに盛り込み、存分に発揮できる出番をいっぱいつくって職員は感謝の気持ちを伝えている。季節の行事や誕生会、ドライブや散歩、地域の行事への参加等気晴らしが出来るよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や、散歩を兼ねて地域公園の清掃活動や買出し、行楽やイベントの出先で外食を楽しむ機会等をつくっている。体調や状況によって出かけられない利用者は、庭や施設周辺への散歩等で気分転換を図っている。	散歩支援ボランティア4人(現在はインフルエンザが流行しているため休み)の協力で隣の公園に散歩に出かける。掃除、落葉集めでは、近所から感謝の言葉をかけていただき励みになっている。天候と職員の体制にもよるが2~3人は毎日のように散歩をしている。回想話や、希望に沿って市場、浄土ヶ浜へドライブをすることもある。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム サンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方が多く、職員が管理しているが買い物の際は個々の財布を持って出かけ、職員の見守りで利用者が支払う機会をつくっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により取次ぐ等、いつでも自由に電話を使用出来るようにしているほか、2ヶ月ごとに近況報告とともに本人から家族に伝えたい事を書いていただき送付している。遠方の娘や孫からの手紙に返事が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭から採ってきた季節の花や植物を玄関や食卓、洗面所に飾り季節感を大事にした環境づくりに心がけている。リビングからは家庭菜園が眺められ、自由に出入りし外気や自然と触れ合えるようベンチが設置されており心和める工夫をしている。	暖色を使ったイス、ソファー、畳の小上がり、目的によってテーブルの位置を自在に変えて動きやすい空間を作っている。夜間を除いてほとんどの方がホールで過ごしている。床暖房で柔らかな暖かみが伝わる。昼食後は全員がモップや雑巾で床を拭く習慣がついている。季節の変化は裏山で感じる事が出来、恵まれた環境と言える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファーや畳部屋と思い思いに過ごせるよう配置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた生活用品、タンスや時計、衣類やぬいぐるみ、アルバム、テレビやラジオなど馴染みのものが持ち込まれている。	訪問時、御詠歌を詠っている方が遺影をかざっていた。テレビ、化粧箱、写真、カレンダー、座椅子などが持ち込まれている。ガラス戸と窓から入る光で居室が明るく気持ちが良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋を間違えやすい利用者の居室前には、目印として本人馴染みのものを取り付けている。リビングの一番、目に付きやすい場所の日めくりカレンダーで今日が何月何日かを事あるごとに確認できるように工夫している。		